

東老連会員加入促進計画

(令和3年度から令和5年度まで)

第1章 会員加入促進運動計画の作成

1 会員加入促進運動の推進

(1) 経緯

高齢者が増えているにもかかわらず、老人クラブの会員は減少する傾向にあります。

こうした状況を脱するため、平成26年度から平成30年度まで全国の老人クラブが「100万人会員増強運動」を展開してきました。

しかし、会員増強目標は達成されず、減少は止まりませんでした。

老人クラブの解散・休会、会員の自然減による減少が大きく、新たに加入する会員が少ないことにつきます。

老人クラブの存在を知らない、勧誘されたことがない、自分は老人ではないなどの理由から会員の加入が進まない事情もあります。

では、会員加入は不可能な課題かということ、現に、会員を増やしている老人クラブは、かなりの数に上っていることをみれば、やればできる課題です。

一方で、人口減少と少子高齢が急激に進行している、日本の社会を見通しますと、「健康づくり・介護予防」と「見守り・支えあい」の取組を今、築いていかないと、地域は崩壊してしまいます。

地域に暮らす老人クラブなどの団体が積極的に地域活動を行うことがとても大事になっています。

老人クラブとしては、「健康づくり・介護予防」と「見守り・支えあい」の地域づくりの担い手としての役割を果たしていくため、楽しく活発な活動を展開します。

このために、活動する仲間を増やす取り組みとして、東老連会員加入促進運動計画を作成します。

2 計画の概要

(1) 名 称

東老連会員加入促進運動計画

(2) 期 間

令和3年度から令和5年度までの3年間（推進と評価）

会員加入促進運動は老人クラブが継続的に推進する取組みと位置づける。

(3) 主体別の取組

① 単位老人クラブ

ア 新規会員の加入目標の設定

イ 見守り・支えあい・助けあいの地域づくりの推進及び楽しい活動の工夫と推進

② 区市町村老人クラブ連合会

ア 会員加入促進のための委員会の設置（目標数の設置）

イ 単位老人クラブの活動支援

ウ 新規会員加入状況の把握

エ 単位老人クラブの休止・廃止を防止

オ 町会等の住区に老人クラブを設置

③ 東京都老人クラブ連合会

ア 東老連会員加入促進運動計画の作成

イ 会員加入促進運動のサポート

ウ 会員加入促進運動及び優良活動事例の周知・広報

エ 表彰の実施

オ 老人クラブ活動のPR、社会的にアピール

(4) 計画の構成

ア 運動方針と加入促進

イ 老人クラブ及び区市町村老連の取組

ウ 東老連の取組み

第2章 運動方針と加入促進

1 運動方針

- (1) 見守り・支えあい・助けあいの地域づくりの活動を充実させます。
- (2) 見ていて楽しい、やってみて楽しい老人クラブ活動を心がけます。
- (3) こうした活動を充実したものとするため会員の新たな加入を実現します。
- (4) 老人クラブの休止や廃止は、残された会員の活動を失わせるので、そうならないような対応・措置を講じます。
- (5) 町会・自治会と協力・連携・融和を図り、住区単位での老人クラブの設置を目指します。

2 加入促進（心覚え）

(1) 新たな会員を獲得する方法

■色々な方法があります。状況に応じて柔軟に。

例えば、声かけのきっかけの例としては、

- ・毎朝の「体操」に参加しないか、と声をかける。催促がましくしないで、親しみを込めて。
- ・女性同士のレクダンスの会、わいわい楽しくにぎやか。一度見に来ませんか。とても楽しいよ。

- ・だれでも自由に入れる「サロン」を始めた。一緒にやろうよ。
- ・老人クラブで英会話サークルを作りたい。特技を活かして先生役をお願いしたい。参加してみない？
- ・グラウンド・ゴルフを定期的開催している。一緒にやろうよ、とか、競技を見物している人に明るく声かけして、談笑しながらやんわり老人クラブをアピールする。
- ・すでに清掃と一緒にやっている仲間に、老人クラブで一緒に活動をしませうとお誘いする。
- ・学校の登下校時の見守りおじさんを一緒にやりませんか。子どもたちとも仲良くなろう。

■親しみを込めて粘り強くお誘いする。強引はダメ優しく。

一回ではあきらめない。相手をおもてなしする気持ち（いらっしやいませ、ありがとうございました。）。

■老人クラブの活動の有効性と意義をきちんと理解してお誘いをお願いします。

(2) 会員加入促進運動の重要性

■老人クラブは、楽しいサークル活動はもちろんですが、もう一步踏み込んで、誰もが願う健康で生きがいのある生活の実現に向けて、地域において「お節介の活動をする」組織です。

■いつまでも健康で丈夫で長生きすることが一番なのですが、その根っこは、生きがい、張り合い、そして役割です。

■これらは、仲間とのつながり、交わりの中で実現します。一人ではなかなか難しいことです。

■仲間と一緒に分かち合い、世話をしたり、世話になったり、つながり、絆が地域にできると、暮らしが、生活が、豊かになってきます。

■こんなことをもたらしてくれる一番の近道は、老人クラブに加入することです。

■会社勤めを続けてきて、地域と交流する時間がなかった方は、リタイアして、いきなり、例えば、老人クラブに飛び込むことはかなり勇気がいるものです。

■でも、こうした方々は、現役時代の色々な特技であったり、技術であったり、知識などを豊富に持っておられます。ご本人のお気持ちを察し、やさしく親切に、そして粘り強く、仲間として迎え入れる、そんな対応・接遇が必要ではないでしょうか。

身近かに、心置きなく会話ができる仲間ができますよ、と。

■老人クラブがめざすものを実現するためには、仲間を増やしていくことが肝心です。会員加入促進運動はずっと続けることが大切です。

それと、仲間づくりは幹部だけではなく会員全員がおもてなしの心をもって進めましょう。

■会員加入促進運動は、老人クラブの活動を行う会員、仲間を増やすことで、「つながりや絆に満ち溢れた豊かな地域」をつくろうとするものなのです。

単に自分たちの勢力を増やそうとするものではありません。

(3) 老人クラブ活動を魅力的にするためには

■これも色々です。模範事例を調べてよく学び、自らの活動の中に取り込むことが一番効果的です。

■老人クラブ活動の中で、スポーツや舞踊、英会話など趣味のサークルを設けることが手始めかも知れません。

先生となれる方(会員でも非会員でもお近くにいる方)を発見して、サークル活動の内容を充実することです。

■ただし、サークル活動だけだと、「同好会」です。

■地域とつながりがなくても活動は続けられますが、「あの連中、何かやっている」的な見方をされてしまいます。

活動が魅力的には映りません。

■「サロン」は、誰もが参加できて楽しいひとときを過ごせる魅力的な事業。

明るく楽しくおもてなしをする雰囲気づくりが必要となります。

マンネリにならないように、少し悩みながらも毎回生き生きとして
いることが大切です。

■こうした努力・取り組みは難しいことですが、続けていくと「生きがい、張り合い」になってきますから頑張りましょう。

■オープンな気持ちをもって活動をするということが大切です。

例えば、グラウンドゴルフをしながらも、見物している人に気安く
声かけして談笑するだけで理解は深まります。

■正直言って、地域とのつながり（一般の住民の方々、町会・自治会の
役員、民生委員、商店街の方々など）があって初めて老人クラブは地
域に存在することができる組織です。

老人クラブの本来目的である見守り・支え合い（「地域の世話を焼く活動」）を率先して果たし、住民の方々の理解とか、共感とか、交流とかを得ていくことがとても大事です。

■そうした「地域の世話を焼く活動」を面倒だとする人が増えていて、
負担はしたくないという方が多くなっているかもしれませんが、

ここはどうか「老人クラブの意義」について諄々と説明して理解を
得るよう努めていただきたいと思います。

■苦勞したことは、その後に達成感とか喜びを味わうことができます。

(4) 老人クラブの意義 (改めて)

(略)

(5) 老人クラブが地域づくりの活動を行う必要

(略)

第3章 老人クラブ及び区市町村老人クラブ連合会の取組

(略)

第4章 東老連の取組み

(略)